



2024年9月18日
興 部 町
公益財団法人イオン環境財団

9月21日(土) 第1回「北海道興部町植樹」を実施 300名のボランティアの皆さまと3,000本を植樹

北海道紋別郡興部町(町長 裕一寿 以下、同町)ならびに、公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田 元也 イオン株式会社 取締役兼代表執行役会長 以下、当財団)は、「第1回北海道興部町植樹」を実施します。

同町では、オホーツク海の潮風が農業・酪農に影響を与えていたため、1959年より防風林植樹が実施されました。その植樹から64年経過し、この防風林の更新が必要とされています。本年7月30日、興部町・オホーツク中央森林組合・当財団の三者は、持続的な防風林の保全を目的に協定を締結しました。同町宮下地区の防風林約3haを更新し、5年計画で植樹を実施します。

また同町は、酪農で発生する糞尿の発酵処理過程で発生するバイオガスを発電に利用する循環型酪農に取り組んでいますが、今回の防風林の更新によって、森林の炭素蓄積量の増加により温室効果ガスを削減するカーボンニュートラルに配慮したまちづくりを進めます。

当財団は、1990年の設立以来、自然災害や伐採などで失われた森林の再生、防災林の再生、気候変動課題の解決等を目指し、国内外の地域行政と協力し、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまと植樹を行っています。北海道においては、2002年から知床で開発跡地の生態系再生を目的に植樹を開始し、2004年9月の台風18号で被害にあった支笏湖周辺や、2021年胆振東部地震により大きな被害を受けた勇払郡厚真町などで植樹を実施しています。

本植樹では、1haに3,000本のトドマツを300名の地域ボランティアの皆さまと植樹します。また同町のカーボンニュートラルについて学ぶ環境教育を実施いたします。

両者は、今後も、次代にみどり豊かな自然環境を引き継ぐため、植樹をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時	2024年9月21日(土) 11:00~12:20		
場 所	北海道興部町宮下地区トドマツ防風林(興部町字興部1251番地の4)		
本 数・参加者	3,000本	300名	
樹 種	トドマツ		
主 催	興部町・公益財団法人イオン環境財団		
協 力	北海道・オホーツク中央森林組合・イオン北海道株式会社		
出席者	北海道水産林務部 森と海の未来づくり	推進監	生田 泰様
	北海道オホーツク総合振興局 西部森林室	室長	宮谷 勇様
	オホーツク中央森林組合	代表理事組合長	野呂田 厚司様
	興部町	町長	裕 一寿
	イオン北海道株式会社	代表取締役社長	青柳 英樹
	公益財団法人イオン環境財団	専務理事	山本 百合子

以 上

(ご参考)

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社 名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、1990年に設立されました。以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の4つの事業活動を中心に、活動しております。現在は、持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組んでいます。

【植樹活動】

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。当財団の植樹を含むイオン全体の植樹本数は1991年から累計約1,268万本（2024年2月末時点）となります。

【北海道内での植樹】

■ 2002年～2006年 知床

北海道斜里郡斜里町は1977年、乱開発の危機に晒されていた知床の開拓跡地を買い取り、植樹して緑を回復させることを目標に「しれとこ100平方メートル運動」を全国に呼びかけてきました。当財団はこの運動に賛同し、2002年から2006年までの5年間で、のべ1,610名のボランティアの皆さまと累計9,000本を植樹しました。

■ 2007年～2011年 支笏湖

北海道千歳市支笏湖では2004年の台風18号による樽前山麓の森林被害は、道内最大規模(当時)となりました。この地を命はぐむ森に再生すべく、5年間でのべ5,203名の皆さまと累計39,600本を植樹しました。また2008年6月には、G8北海道洞爺湖サミットと並行して開催されたユースイベント「J8サミット」に参加する子どもたちと「イオンチアーズクラブ」のメンバーの合計約100名が植樹活動を実施しました。

■ 2012年～2014年 むかわ町

北海道勇払郡むかわ町では森林が約8割を占め、豊かな自然を利用した農林水産業が主な産業であり、森・川・海のつながりを活かしたまちづくりを目指しています。近年、山間部の森林荒廃が進んでいたことから、「魚つきの森を守ろう」と、森を守ることで川を守り、そして海を守るべく3年間でのべ1,735名のボランティアの皆さまと、累計16,000本を植樹しました。

■ 2015年～ 厚真町

北海道勇払郡厚真町では、水源涵養機能の回復や防災林の保全を目的に、2015年から3年間、のべ1,830名で計16,400本の植樹を実施しています。また、2021年胆振東部地震によって大きな被害を受けた吉野地区には、エゾヤマザクラ・ヤエザクラを30本植樹し、2022年からは、幌内地区において、1,700本のエゾヤマザクラを植樹しています。本年は10月5日に植樹実施予定です。

■ 2019年～2021年 南富良野町

北海道空知郡南富良野町は、総面積の約9割が森林地帯の自然豊かな地域です。2016年の台風10号に伴う大雨による空知川の河川増水で、甚大な浸水被害が発生しました。当財団と町は、災害から地域を守るとともに緑あふれる森の再生を目指し、3年間でのべ650名のボランティアの皆さまと、累計7000本を植樹しました。



2023年厚真町さくら植樹